

第1回葛城市総合計画及び総合戦略策定審議会
議事録

日 時：令和7年8月18日（月）午後3時～午後5時

場 所：新庄健康福祉センター 3階 会議室

出席者：北詰委員 村瀬委員 奥田委員 下村委員 杉村委員

西川委員（代理出席津本氏） 東野委員 松下委員 大武委員 坂上委員

松井委員 大植委員 溝畑委員（代理出席松井氏） 槇野委員 岡山委員

三宅委員 渡辺委員 川本委員 駒井委員 吉田委員 堀内委員

議題

- 1 開会
- 2 市長挨拶
- 3 案件
 - （1）会長及び副会長の選出について
 - （2）葛城市第二次総合計画及び第2期葛城市総合戦略に係る実績報告について
 - （3）葛城市第三次総合計画に係る調査票について
 - （4）今後のスケジュールについて
 - （5）その他
- 4 閉会

2 市長挨拶

市長より委員へ挨拶

3 案件

(1) 会長及び副会長の選出について

事務局に一任され、事務局より北詰委員が会長に選出
北詰会長より、村瀬委員が副会長に選出

(2) 葛城市第二次総合計画及び第2期葛城市総合戦略に係る実績報告について

事務局より資料2-1, 2-2を用いて説明

副会長

報告書では達成できているものがかなりあるが、事務局の目線から過去5年間携わってきた中でどのようなところが市民の認知度上昇につながった要因だと思うか。

多くの自治体で外向きの情報発信はしているが、市としては、内向きの情報発信としてどのような取組をしたのか。

事務局

数字で見ると人口と転入者が増えている状況。外向きの宣伝・周知は行っていない、現在の住民に対して政策を進めている状況。葛城市では奈良県内で水道料金が一番安いことや18歳以下の医療費の無償化などを実施しており、現在の住民に対しての政策が結果として、人口・転入者の増加につながっていると分析している。

会長

数値達成に目的を持つと、派手な宣伝を行いがちだが、事務局が言ったように、本質的に市民が暮らしやすいような政策を実施した結果、目的が達成されることは大事だ。

松下委員

綿弓塚の来場者という数字が挙げられている。普段綿弓塚は開けっ放しであり、どのような形で来場者数を調べたのか。

事務局

施設のほうで来場者を把握している。具体的にはカメラをつけているため、カメラに映った人数をカウントして来場者が分かる仕組みとなっている。

吉田委員

市内の販売農家数というのはどのように把握している数字なのか。

事務局

5年に1度の農業センサスで販売農家数を把握している。また、調査年度でない年には新たに担当課が販売農家であると認識した数字を少し足している。

会長

農業センサスというものはアンケートか。どのように数値を取っているものか。

事務局

国による調査で農家へ全数調査を行っている。その数字を持って報告の数字としている。

会長

令和8年はセンサスの数字を使っている年か。

事務局

令和7年に行っているが、数字が遅れてくるため、現状では出てきていない。推測として、数字が減る可能性が高いと考えている。

下村委員

市民団体として清掃活動やごみの減量の事業をしているが、ほとんどが未達成ということとさらに頑張らなくてはいけないと考えている。我々としては認知度が低く、宣伝しなければと考えているが、行政にももう少し力を入れてもらいたい。

事務局

担当課と相談してどのように周知を図っていくか検討したい。

下村委員

今の団体の活動の場が高速の下だが、9月に出て行かなければならない。そういったことも説明できればしてほしい。

会長

この議題については詳細な分析を行うと聞いているため、次回会議で報告があるかもしれないし、委員に個別回答でもいいので改めて回答をお願いする。リサイクル率の宣伝については回答できるか。

事務局

リサイクル率については担当課とも相談する。ごみの排出量については住民の増加も1つの要因としてあると思うため、そのあたりも考慮して、どういった指標を設定するか検討する。

会長

全国的な傾向ではリサイクル率は20～21%という数字をよく聞く。ただこの数字はここ10年、20年で伸び悩んでいるため、葛城市においても、通常でリサイクル率が高められるのか、頭打ちなのかという状況を踏まえたうえで回答・設定した方がよい。

奥田委員

様々な指標が出ているが、そもそもどういった理念のもとに政策が出され、どのような経緯でこの指標に至ったのかを説明してもらえれば次の総合計画につながっていくと思う。

会長

今動いている総合計画は政策の柱、政策目標、施策目標ごとにブレイクダウンし、それに対応する目標値が決まっているのが筋だと思う。

事務局

現在の第2次総合計画の資料では市の将来像として「歴史を紡ぎ、未来を拓く、時代を超えて愛され住み良い共創葛城」を大きな柱とし、その下に政策の柱3つ、1つ目が「調和と共生」、2つ目が「聡明・学習」、そして3番目が「活力・安全」を中心として各施策を進めている。総合計画は市の最上位計画であるため、少し抽象的な表現になると思う。

会長

総合計画は極めて抽象度の高い話と、実際に生活や行政の作業といった施策には差がある。先ほどの質問の本市はこれから総合計画を策定する際にKPIや指標と理念をどう組み立てて考えなければいけないか。それが分からないと次回の会議で何を審議すればいいのかわからないということだと思う。

コツとしては抽象度の高いものと具体性のあるものを行ったり来たりして段階的につなげながら考えることを繰り返すことで、整合性がとれている。

質問で具体的なことについて質問した際に、事務局がこの政策の柱に関連して、こういった施策をしているというような説明をできれば繋がってくると思う。

奥田委員

評価自体は別の会議体等で行うものと考えており、この審議会では、計画書の審議を行うものと認識している。市民と次の10年間に向けていろいろなエッセンスを入れたうえでできるのかも重要。今後、グランドデザイン（次の10年に向けて）のようなもの・施策の提案や提言をしていけるような会議体なのか。そのあたりも整理しておいてほしい。

松井委員

政策の柱1—1「市民みんなで活躍できる社会の構築」の施策目標1「高齢者や障害者が安心して暮らせるようにする」について、私は車いすで生活をしているいろいろ気づくことがある。特にバリアフリー等に興味があるが、以前のアンケートでは「高齢者や障害者が安心して暮らせる福祉の充実したまち」が理想の将来像として最も高く、具体的な取組にも「障害のある人が安心して日常生活や社会生活を送れるように、施設の整備におけるバリア

フリー化やユニバーサルデザイン化の推進、ホームページ等葛城市バリアフリー基本構想の早期実現に努めます」と書かれているが、達成度指標にはバリアフリー等が関連して書かれていないため今後入れてほしい。

事務局

今後の策定作業の中で、こういった指標が良いのか検討したい。

会長

どのようなものを達成目標とするか。考え方としては、政策目標は施策をもっとも反映する指標が好ましいが、その他に計測可能性が高いものといった要素もある。将来めざすものを合わせて検討していけると良い。

次の計画でも同じ指標にするかは、先ほどのような要望についても併せて考えてもらえば。この10年にふさわしい政策目標を指標とともに選ぶことが大事である。

(3) 葛城市第三次総合計画に係る調査票について

事務局より資料3-1, 3-2, 3-3, 3-4を用いて説明

会長

資料4をみると、10月実施予定のスケジュールとなっている。今日の審議を踏まえて修正や実施が行われるため、それを踏まえて質問や意見をいただければ。

溝畑委員（代理出席松井氏）

アンケートは1人当たりどのくらいの所要時間がかかるのか。また、回収率は何%を目指しているのか。

事務局

回答時間は15分からもう少しかかる程度だと思う。前回のアンケートが33問、今回都市マスの設問が入り40問となっている。回収率については30%の回収率を目指したいと考えている。

会長

職員の何人かに実際に回答いただき時間を計れば良いと思う。質問の趣旨としてはアンケートの説明部分に大体何分かかるかを、調査票に記載してほしいということだと思う。

事務局

確認して記入する。

岡山委員

事前送付でアンケートについて質問したが、それについての回答をお願いしたい。

事務局

中高生アンケートの設問 11 に「家の広さ」についての記述があり、中高生にこの内容を質問するのは家庭環境に踏み込むのではという質問だと認識している。

ここについてはまだ検討が進んでいないため、ぎょうせいとも相談しながら質問が適切かどうかを改めて検討して修正が必要であれば修正したうえでアンケートとして出す。

坂上委員

中学生向けのアンケートについて、「私立と市外の中学校に通学される者は除く」とあるが、本来であればそれらにもアンケートすべき。また、はがきで実施するアンケートと中高生アンケートそれぞれに整合性はあるのか。

事務局

公立だけを対象としている理由はタブレットが全員に配布されているため Web 回答が可能だということが大きな理由。私立と市外中学校も対象とすべきという意見もあるが、ピックアップが難しい。私立と市外中学校がどのくらいの数いるのかを把握していない。もしするとすれば一般調査のハガキに追加するしかないと思うが、全員回収可能かも不明な部分がある。

奥田委員

配布対象はどのように決めているのか。

事務局

ハガキでの配布数 2000 のうち、高校生は年代で絞れるため、Web で限定して回答を行う予定。本日の会議では紙で示しているが、実際はインターネット上の画面になるため、設問 2 で中学生か高校生かを選んだら次の設問に行くイメージとなる。

奥田委員

中学生は紙で実施か。

事務局

タブレットによる Web 回答で行う。

奥田委員

中高生には同じ設問が出るのか。

事務局

全てではないが、同じ設問も一部ある。

奥田委員

高校生にはどのような形で配布するのか。

事務局

案内はハガキで実施。ハガキに二次元コードを記載し、それを読み込んだうえで質問ページにジャンプするイメージ。

坂上委員

自身が東京から越してきたとき、葛城市は水道料金が安いとか、ゴミ回収の無料や子育て支援制度があって感動した。しかし、市に高校がないのが気になっている。近隣に中高一貫校ができて葛城には作りづらいのかもしれないが、高校生へのアンケートで「葛城市に高校があれば通いますか」という設問があってもいいのではと思う。

また、私立と市外の中学に聞くのであれば、なぜ葛城市の中学校に進学しなかったのかという設問もいると思う。

事務局

意見を検討したうえで調査票に反映するか判断する。

会長

高校については基本的に県の政策のため、市としてどこまでやれるかという、強い要望を出すことしかできないと思う。だが、せっかくだいた意見なので、検討してほしい。

奥田委員

中学生対象としたアンケートは非常にいいと思う。しかし、アンケートをする際には、ある程度の誘導とまでは言わないが、結果を求めて実施する側面もあると思う。今回は、何を目的として実施するのか、アンケートの設計思想を聞きたい。

また、中学生だけでなく小学生も、今タブレットを持っているため、教育分野から言うと、高学年5・6年生になれば、アクティブラーニングを取り入れて自分で住みたいまち等について、総合学習の時間に学んでいる。

12歳のこどもは、10年後22歳になって大学生。その際に12歳のときにアンケートに参加した経験があると、10年間で葛城市がどう変わったのかを感じることができると思うため、調査対象を小学生にも広げてもらえたらと思う。

もしできないのであればできない理由となぜ中学生は行い小学生には展開しなかったのかを教えてほしいと思う。

事務局

前計画策定時には18歳以上の市民にしか聞いていなかった。今回はもう少し若い世代ということで中高生まで広げたという経緯がある。小学5・6年生に関しては、中高生対象の設問がどこまで理解できるのかという問題もあるため、もう一度精査はするが、少し難しいと認識している。

奥田委員

今の子どもたちを取り巻く環境は大人が先回りして機会を奪っていると思う。今の説明もまさにこれに該当するのではないかと考えるため、子どもの機会、創造性の発揮ということ考えた際にそういったことも考慮してほしい。

事務局

検討させてほしい。結果については後日知らせる。

会長

小学生の機会は非常に大切であり、彼らが何を成し遂げていくかの礎だと思う。委員の要望に沿って、できなかった場合は、理由も含めて示してほしい。

奥田委員

アンケートの設計思想については今後の計画のビジョン作成にもつながってくると思う。

会長

親に代筆してもらおう等、色々やり方はあるように思うため、検討をお願いしたい。

松井委員

住みよいまちづくりのためには高齢者や障がい者が住みやすいまちを考えてもらえばだれもが住みやすいまちになると思うため、アンケートに高齢者や障がい者を対象としたアンケートを可能だったら実施してほしい。

事務局

大事な意見だと思うが、今回は最上位計画で大きな観点で見ていくという視点がある。

個別の詳細な高齢者、障がい者についての施策は、障害者福祉計画や高齢者保健福祉計画といった計画もあるため、総合計画の検討をする際には取り入れていきたいと考えている。

会長

今回のアンケートですべて網羅して対応ということは難しい部分もある。しかし、このような要望があったということは押さえておく必要があり、整合性を持たせるように策定に向けて対応してほしい。

松下委員

高校生 1100 人にはハガキでの Web 回答ということで、高校生は二次元コードで Web 回答ができるという前提にあると思う。数は少なくともスマートフォンを持っていない人がいるのではないか。そういった人は回答したくてもできない状態にならないのか。そういった方への対応についてどう考えているか。

事務局

もし電話でそういった問合せがあれば、郵送での対応できると思うため、そういった方法で対応したいと考えている。

松下委員

できない方は電話でというようなことは書いてもらえるのか。

事務局

記載する予定である。

松下委員

最初から Web 調査だけとなってしまうと、回答する人は少なくなり、それだけで回収率が下がってしまう可能性もある。

奥田委員

補足として今高校に通っている生徒は GIGA スクール構想で 1 人 1 端末持っているため、公立高校であれば全員できると思う。ネットにもつなげられる。

松下委員

高校生で回答できない人がいるのではないかと心配していたので、できるのであれば問題ない。

副会長

奥田委員から設計思想の話があったが、このアンケートをどのような手段と捉えているのか。今後も市に住み続けたい市民を増やすための調査であることは認識しているが、前回と比較をするのであれば設問はなるべく変えない方が良く、政策に反映させるトレンドの部分聞くのであれば新たな項目を追加する必要がある。優先順位を確認する必要があると思う。また農村部では、人口を増やすための定住・移住政策に関する設問を設定するところもある。そういったことも考えて、政策に反映する際の相対的な優先順位を聞いておく必要があると思う。

中高生アンケートについても高校卒業後に生涯にわたって葛城市に住んでもらいたいという前提なのか、一度出て行っても将来的に戻ってくるための政策を考える目的なのかで違ってくる。中高生アンケートの 4 ページ「あなたは将来葛城市に住み続けたいと思いますか」というところで住みたくないとは思っていなくても就職等で外に出てそのまま戻ってこない大学生はかなりいるのではないかと思う。そういった観点から外にいるけど葛城市に愛着、恩を感じて外から葛城市の活性化に寄与したいというような学生が増えてきていると思うため、そういった政策が今後あってもいいのではと思う。

事務局

設計思想について、職員の立場からの想いとしては、「将来的に葛城市にずっと住んでもらいたい」そのためのアンケートである。しかし、高校も大学も本市にないため若い人は出て

行かざるを得ない。そういった中で、将来帰ってきてもらうために今の葛城で何が足りないのかをアンケートでつかみたいのが趣旨。

優先度を絞るという話もあったが、事務局としては政策の優先度を絞るのは難しいと思っている。それぞれの施策を充実させてやっていくのが、相乗効果含めて効果があると思う。市長も先ほど言っていたが、まず現状を把握したうえで今後必要なものを政策として打ち出したいのが目的で誘導的な設問にはしていない。

会長

設問の中で、幸福度や満足度と合わせて、それぞれの回答者が何を重視しているのかを個別に聞いている。合わせた集計で優先順位が分かるような分析をしてもらえばと思う。

説明の中でも、アンケートの連続性・今後10年に必要なこと、どちらも取り入れている説明があったと認識している。全ての立場の意見を反映することは難しいが、設計されている内容には、そういった継続性や新規性に関するアイデアが入っていると思う。

今回の議論を踏まえて修正し、10月に実施していこうと考えているため、細かな修正については事務局に一任いただければと思う。私も確認したいと思う。

(4) 今後のスケジュールについて

事務局・株式会社ぎょうせい吉川より資料4を用いて説明

奥田委員

12月に第2回の会議があるが何が出されるのか。

ぎょうせい吉川

基本的にはアンケートの結果を踏まえて報告しようと思う。また、市政フォーラムに向けて市としてこういった形でまちづくりを考えているという方向性の部分を示せればと思っている。市政フォーラムの実施に向けての議論が12月にできればと思う。

奥田委員

人口ビジョンの素案についても、そのあたりに示されるスケジュールとなっているが、何が出されるのか。

ぎょうせい吉川

素案と題する計画の認識としては、今回の策定では、方向性を示す部分を想定している。人口ビジョンについては、「このくらいの人口規模を目指していく」という内容を示せればと考えている。

会長

ただアンケートの結果を示すだけではなくて、その結果を次の総合計画にどういったコンセプトと体系で活かしていくのかという情報を添えて提示いただけると良い。

(5) その他
特になし。

配布資料

- 葛城市総合計画及び総合戦略策定審議会次第
- 第1回葛城市総合計画及び総合戦略策定審議会座席図
- 葛城市総合計画及び総合戦略策定審議会名簿
- 葛城市総合計画及び総合戦略策定審議会等条例
- 資料1 葛城市総合計画及び総合戦略策定審議会組織体制
- 資料2-1 第2期葛城市総合計画達成度見込み報告書
- 資料2-2 第2期葛城市総合戦略重要業績評価指標達成度見込み報告書
- 資料3-1 アンケート調査実施案
- 資料3-2 一般アンケート調査票案
- 資料3-3 中高生アンケート調査票案
- 資料3-4 市外モニター調査票案
- 資料4 スケジュール案

以上